

云々

〔神皇正統記繼體〕繼體天皇は、應神五世の御孫なり、應神第八の御子隼總別の皇子、その子大迹王、其子私斐王、その子彥主人王、その子男大迹王と申すは、この天皇にまします略○中 應神御子おほくきこえたまひしに、仁德賢王にてつたへまし、かど御するたえにき、隼總別の御末にて、かく世をたもたせ給ふこと、いかなるゆるにかおぼつかなし、仁德をば大鷦鷯尊と申す、仁德の御代に、これ兄弟たはふれて、鷦鷯は小鳥なり、隼は大鳥なりとあらそひたまふことありき、隼の名にかちて、するゑの世をうけつぎたまひけるにや、もろこしにもかゝるためしあり、左傳に名をつくることも、つゝし、しみおもくすべきことにや、それらおのづから天命なりといは、凡慮のおよぶべきにあらず、

○按ズルニ、本書繼體天皇ヲ以テ隼總別皇子ノ裔トセルハ誤ニテ、若野毛二俣王ノ裔ナルコト帝王部踐祚篇不爲太子而踐祚ノ條ニ辨ゼリ、

〔源平盛衰記三十一〕大神宮行幸願附廣嗣謀叛并玄昉僧正事

同平○天 十八年六月ニ、太宰府觀音堂造立供養アリ、玄昉僧正導師タリ、高座ニ上テ啓白シ給ヒケルニ、俄ニ空搔曇雷電シテ、雲高座ニ卷下シ、導師ヲ取テ天ニ騰、次年ノ六月ニ、彼僧正ノ生シキ首ヲ興福寺ノ南大門ニ落シテ、空ニ咄ト笑聲シケリ、此寺ハ法相大乘ノ砌也、此宗ハ玄昉僧正ノ渡シタレバ、廣嗣ノ惡靈玄昉ヲ怨テ、角シケルコソ怖シケレ、此僧正入唐ノ時、唐人其名ヲ難ジテ云、玄昉ハ還テ亡ト云音アリ、日本ニ歸渡テ、必事ニ逢ベキ人也、只唐土ニ留給ヘカシト云ケレ共、故郷ヲ戀シカリケレバ、歸朝シタリケルガ、角亡ケルコソ不思議ナレ、

〔續古事談王道后宮〕宜秋門院羽后○後鳥ノ御名ノサダメアリケル時、兼光中納言、任子ト云フ御名ヲタテマツラレタリケルヲ、靜賢法印申シテ云ハク、白氏ノ遺文ニ、任子行トイフ文アリ、シカモカ